

**December 6, 1979**

**Cable No. 2615, Ambassador Yoshida to the Foreign  
Minister, 'Prime Minister's Visit to China (First  
Summit Meeting) (A)'**

**Citation:**

"Cable No. 2615, Ambassador Yoshida to the Foreign Minister, 'Prime Minister's Visit to China (First Summit Meeting) (A)'", December 6, 1979, Wilson Center Digital Archive, 2004-589, Act on Access to Information Held by Administrative Organs. Also available at the Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan. Contributed by Yutaka Kanda and translated by Stephen Mercado.

<https://digitalarchive.wilsoncenter.org/document/209559>

**Summary:**

The meeting covers topics about the foreign policy of Japan and China toward the United States, the Korean and Indochinese Peninsulas, and the Soviet Union among other locations.

**Original Language:**

Japanese

**Contents:**

Original Scan

Translation - English

(Y) (D)

注意

6  
秘密指定解除  
情報公開室

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については電信一般問合せ係 (TEL 2172) に連絡ありたい。

電信写

外儀官  
典房  
次次  
長長  
長長

審総人電在儀

参対文会厚海

調査長 参企折調

領移長 参一旅移 二查

次地中東ア  
難  
東  
参北一西

米長 参北北保

中南審 参一二

欧長 参西東洋 西東

近ア長 参アア

経入総経国資漁  
参 経国資

経協長 参政技一開 技 書圍二二理

条長 参条協規

国長 参企軍專 政経

科審 科原

副長 参備ブ内外

文長 参一二

総番号 (TA) R098367 5130 主管

79年 月 06日 03時 55分 中国 発

79年 12月 06日 05時 43分 本省 着

外務大臣殿 吉田 大使 臨時代理大使 総領事 代理

総理訪中 (第1回首のう会談) (A)

第2615号 極秘 大至急

往電第2612号に関し

冒頭往電の表けい訪問の後、人民大会どう安キ庁で第1回首のう会談が2時間にわたり行なわれたところその模様次のとおり。(先方出席者は、往電第2611号のとおり)

1. 先づ華総理より、今回は第1回目の会談でテーマはあらかじめ決られたとおり国際問題としたい旨述べた後、中国のれいぎ上また習慣上客人より発言願いたいとして大平総理の発言をうながした。

2. これに対し総理は次のとおり発言された。

(1) わが国の外交政策及び国際情勢についての見方について話したい。先ず、日米関係であるが、政治信条、社会、経済体制を同じくし、二国間関係として史上類例をみない程良好な関係になつている。わが国としては、のう密な関係をもつ友邦として日米関係を最も大切に維持したい。戦後日本の安全と復こう、自立経済の達成は、米の大きな援助と協力に負うものである。しかし、現在の米国は、ヴェトナム戦争、ドルの下落等によりせき日の勢いが無い。日本としては、米に依存する形か

## 注 意

秘密指定解除  
情報公開室

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については電信一般問合せ係（TEL 2172）に連絡ありたい。

## 電 信 写

ら米のパートナーとして協力しなければならない時代に来たと考えている。同時に経済まさつも起きているが、このまさつを解決しながらパートナーとして米に協力して行くというのが日本の立場である。米国が世界の指導国家として信頼できる安定勢力としてこうけんしてもらわねばならない。去年は、日米間の経済まさつの解決に努力したが、本年は、イラン問題に関し、早急にこれを平和りに解決するためわれわれとして何が出来て何が出来ないか、目下く慮しているところである。

(2) 日中国交正常化以来7年経過した。平和友好条約及び実務協定を締結することに成功した。貿易も着実にのび、人事交流も活発になり、相互信頼が深まったことは同けいにたえない。今回の訪中も日中関係をよりよいものとし、より広がりのあるものにしたいと考えたからである。

(3) 貴國の現代化計画も一部について、コクボク副総理訪日の際に応分の協力を求められたが、政府部内で検討しようやく成案を得た。既にコクボク副総理にお伝えした通り8プロジェクトのうち、6プロジェクトについて協力することとしたく、細かいつめは実務当局に行なわせることとしたい。

(4) これは政府借かんであれが<sup>る</sup>両国間には両間ベースの話が進んでいる。飛行場からの車中で話した通り、ボツ海湾石油開発の問題に関し、日中間の話合いがまとまつたことは同けいにたえない。長期貿易取極も締結され、バンク・ローンも成立しているので政府間のみならず民間をも通じ経済協力を行いたいと考えている。

(5) かつて訪中し、故シュウ総理とお会いした際、両国の友好協力関係は兩國のみならずこの地域の安定とはん榮に役立たなければならないといわれた。日中兩國が友好協力関係を持つことはアジア地域の安定にとつて大きな要件となつている。

(6) もともと半島というところは火やくこの如きものである。例えばバルカン、朝

R 0 9 8 3 6 7 - 0 2

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については電信一般  
問合せ係 (TEL 2172) に連絡ありたい。

秘密指定解除  
情報公開室

## 電 信 写

鮮、インドシナの半島のように過去において紛争のたねとなつた。日中兩國が何を行い、何を行わないかは政治的影響を及ぼし、この意味から先ず朝鮮半島の問題について述べる。朝鮮半島の統一問題はひとえに朝鮮民族の問題である。現実不幸にして二つのオーソリテイの下で対立する状況にある。数年前に南北対話は成果を挙げるものと期待したが、目下のところ不幸にして見るべきものがない。南北対話のためによいかん境を作りあげてやる必要がある。貴国は北と親しい関係にあり、日本は南と関係がある。米も貴国も日本もソ連も半島の安定のため何をしてよいか、何をしないかを考えていかなければならず、この点について貴国を判断をうかがいたい。

(7) インドシナ半島については緊張が続いており、カンボディアも極めて困難な状況にある。われわれはか細い関係は有するが、この地域に影響力を有する貴国を意見を聞きたい。

(8) 日本とASEAN 5カ国とは比較的よい関係に発展している。太平洋地域全体は大変難しい状況にあるが、資源は資源として貿易は貿易として機能的に強化されるようにと考えている。ニュージーランド、カナダ、米、メキシコ等は資源、貿易関係で共通の意識があり、密接な関係を維持している。またオセアニアについては多くの国が独立している。(9) 日ソ関係については、日本は領土問題を解決し平和条約を結ぶとの基本方針を変えていない。

領土問題の解決の気配がみえてないことは遺憾である。しかし、経済、貿易、文化その他の実務関係は、けん実にのびており基本的問題になることはない。最近、ソ連は、北方領土に軍事力を増強しており、わが国はこれに重大な関心を持つている。なぜこの時期にそれが行なわれているのか不明であるが、ソ連は行動により平和をおびやかしている。

R 0 9 8 3 6 7 - 0 3

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については電信一般 情報公開室 問合せ係 (TEL 2172) に連絡ありたい。

秘密指定解除  
情報公開室

## 電 信 写

(10) 世界経済はむずかしい状況にあるが、経済全体を拡大させることが日本の利益にもなり世界の利益にもなる。このため、日本としても先進国なみの協力を行なうことをめざしている。資源、石油の問題で制約が生じ通貨もむずかしい状況にある。

(11) 華総理は、西欧4ヶ国を訪問されたが、訪問後如何に情勢をみられるか、またモスクワで行なわれている中ソ会談に対する見解をうかがいたい。

3. これに対し、華総理より次のとおり述べた。

(1) 大平総理より日本の外交政策について詳細な説明があり、これに感謝する。世界情勢の発展に対する中国側の見方については、トウ副総理が訪米の帰途大平総理に話したので御存知と考える。その際国際情勢は、全般的にみるとおん和でなく激動、動乱の方向に向かっているとトウ副総理が申し上げたが、それ以来9ヶ月経った現在、情勢はまさにより激動し、より緊張している。

(2) 具体的現われとして、イスラエル—アラブ間の問題が未解決のまま米・イランの問題が発生し、拡大の徴こうをみせている。サウディアラビアにも問題が起きている。石油の産地である中東、ペルシャ湾に動乱が発展すると西欧に対する石油輸入のきょういが大きくなる。米・イランとの関係がかん和するきざしもないまま、リビア、パキスタン等にある米大使館がやき打ちにあつている。中国は、この地域の情勢の発展に重大な関心を寄せている。先般訪問した西欧4ヶ国もこの地域に不安をいだいていた。

(3) インドシナ問題に関し、越はカンボディアにかん期攻勢をかけている。これは単にカンボディアの問題ではなく、ASEAN 5ヶ国特にタイ、マレーシアへのきょういの問題であり、そのはい後にソ連の世界戦略がからんでいる。

(4) ソ連は西欧に対しSS 20 ミサイルを配置するなど装備を強化している。西欧

R 0 9 8 3 6 7 - 0 4

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については電信一般情報公開室  
問合せ係 (TEL 2172) に連絡ありたい。

## 電 信 写

秘密指定解除  
情報公開室

諸国は、従つてこのきょういに対処するため自衛力を強化すべきであると考えている。西欧諸国はかかる緊張の源は中東にソ連が手を出していることにありとみている。それは欧州へのう回包囲の体制となつており、ソ連は戦わずして勝つとの考え方をもっている様である。ソ連が産油国を有する中東という「弱いふく部」に攻勢に出ることとは、西欧へのう回をねらつたものである。

(5) 越のカンボディアへの侵略も、ソ連の支援がなければ大びらには出来なかつたであろう。ソ越条約第6条は實際上、軍事同盟の性格を有している。越はこの条約の保険がないとちよ突もう進はしなかつたであろう。越がラオス、カンボディアを手中に入れるとASEANに進み、大西洋と太平洋のルート、特にマラッカ海きょうをにぎれることとなる。ソ越が同海きょうをおさえることは、中国へのきょういでもあり、米、日へのきょういでもある。ソ連のアジア安保の手助けともなる。

(6) ある国際研究所が80年代の展望として85年が危険な時期として予想されているが、われわれもこれに注目している。この予想にはそれなりの根拠があり、例えば85年には核兵器の面でソ連が米に対しゆう勢になるかもしれない。

日本の研究家の中にも同様のことを言う人がいる。

(7) われ々は80年代に第三次世界大戦が起こる可能性があるが、全世界の協力によりこれを遅らせることも出来るとみている。

現在、3つの「熱い地点」があるが、それらは、中東、インドシナ、アフリカである。西欧を訪問し、中東の「熱い地点」の熱が最も高いということが判り、その推移に注意しなければならない。

第2の産油国のイランの動乱が早く平せいにもどるきざしはない。サウディアラビアでもむじゆんが起きている。

R 0 9 8 3 6 7 - 0 5

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については電信一般情報公開室  
問合せ係 (TEL 2172) に連絡ありたい。

秘密指定解除  
陸外

## 電 信 写

(8) 朝鮮半島の問題については既にトウ副総理より大平総理に述べた。ボク・正キが最近ころされたが、これは、南朝鮮の社会、政治的危機がひどくなっている証拠である。北朝鮮はこのような南朝鮮の出来事に自制的態度をとっている。このように、朝当半島の危機は、北の南下によるものでないことは、事実が証明している。

南朝鮮にこの出来事が起ると、金日成主席は、団結、協力、統一のスローガンを打出し、どこでもだれとでも会談したいと提案している。

米国の友人に北の南下を心配する向きもあるが、この心配は不要である。金日成主席は、自主的平和統一のスローガンの下に平和的に朝鮮を統一しようとしている。われ々の知るところ、統一後も独立した非同盟の中立政策を続けるとしている。われ々は金日成主席に賛成を表明している。われ々の希望としては、中国と日本で南朝鮮の民主化を促しては如何かと考える。この点については、米国の友人とも相談したい。大平総理の言われるように、かれらによいかん境を造りたく、また南北対話を促進し南北の統一を促進したいと考える。このことは、中国、日本にとってまたアジア・太平洋地域の平和と安定にプラスになる。

(9) インドシナ問題については、トウ副総理が、日本で大平総理に自衛反撃について述べ、またそれには限度を設けると述べた。インドシナの問題は、越の問題だけでなく、越ソのは権主義者の拡張と侵略につながる。中国が無為無策であつてよいか、いかにすべきかと考えた結果の限度ある自衛反撃であつた。限度を設けなかつたら、ランソン攻略後の南進は容易なことであつた。自衛反撃がなかつたら、カンボディアのてい抗勢力はとつづくに排除され、越は、タイ、マレーシアに手を出したであろう。

(10) 越は、カンボディアに20万の軍を有しており、現在かん期攻勢を展開して

R 0 9 8 3 6 7 - 0 6

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については電信一般 情報公開室 問合せ係 (TEL 2172) に連絡ありたい。

秘密指定解除  
情報公開室

## 電 信 写

いる。しかし、カンボディアの人民戦争では、人民の支持があるので、越がてい抗勢力を徹底的に消めつさせることは易しくない。

(11) ASEAN諸国は、越のカンボディア侵略に反対し、撤兵を要求しており、態度は明りようである。国連総会でASEAN案は可決された。政治的解決を行うには、情勢は未じゆくである。中国は民主カンボディアの闘争を支持し、またASEAN諸国を支持する。もし越がタイを侵略すれば、中国はタイの側に立つ。

(12) 越の侵略を受けた後のカンボディア人民の生活はくるしく、西欧諸国を含め多くの国々がカンボディア難民の救済について述べている。私も訪欧の際その場で賛意を表明し、協力したいと述べるとともに、中国へ来たい難民があればかん迎すると述べた。

私は同時に救済のルートについて越またはヘンサムリンを通じるとかれ等の手に渡ってしまうから、タイのルートを通じるのがよいことを提案した。欧州の国々は、私のこの提案に賛意を示した、米は一時越との関係正常化を行おうとしたが、越によるカンボディアへの侵略をみてこれを遅らせた。われ々はこれに賛成である。日本も対越援助をとう結したが、われ々はこれにも賛成である。

4. 以上でかん迎えんの時間が近づいたため、明6日、続行することとして本日の会談を了じた。

(丁)

写手交済(6日06時10分)



Number (TA) □RO98367 □5130  
Primary: Asia and China  
Sent: China, December 06, 1979, 03:55  
Received: MOFA, December 06, 1979, 05:43

To: The Foreign Minister □  
From: Ambassador Yoshida  
Prime Minister's Visit to China (First Summit Meeting) (A)  
Number 2615□Secret□Top Urgent  
Concerning Outgoing Telegram No. 2612

After the courtesy call described in the initial outgoing telegram, in Anhui Hall, the Great Hall of the People, there took place over the course of two hours the first summit meeting, as follows. (Those attending from the other side were as reported in outgoing telegram No. 2611.)

1. Premier Hua started by saying that, as decided previously, he wanted to make international problems the theme of the meeting. Then, saying that he would like to ask his guest to speak first, in line with Chinese courtesy and custom, he encouraged Prime Minister Ohira to speak.

2. In response, the Prime Minister spoke as follows:

(1) I would like to talk of how we view our country's foreign policy and international situation. First, relations between Japan and the United States, in political belief and in social and economic system alike, are better than they have ever been in the history of our bilateral relations. Our country wishes to cherish and maintain more than anything relations between Japan and the United States as a friendly country with a close relationship. Postwar Japan's security, recovery, and achievement of an independent economy are due to the great aid and cooperation of the United States. However, on account of the Vietnam War, the dollar's fall, and such, the United States lacks its former vigor. The thinking is that Japan, dependent on the United States, has reached a period in which it must cooperate as a partner of the United States. At the same time, economic friction is taking place, but Japan's position is one of, resolving this friction, our proceeding in cooperating with the United States. We must have the United States, as a world leader, contribute as a reliable force for stability. Last year we worked to resolve the economic friction between Japan and the United States. This year, in regard to the Iran problem, we are now struggling with what we can and cannot do to bring it as soon as possible to a peaceful settlement.

(2) Seven years have passed since the normalization of relations between Japan and China. We succeeded in concluding a treaty of peace and friendship and working agreements. We are most pleased that trade has steadily grown, people-to-people exchanges have become lively, and overall trust has deepened. We would like this visit to China, too, to make relations between Japan and China even better and broader.

(3) Vice Premier Gu Mu requested appropriate cooperation in regard to part of your country's modernization plan. Our government reviewed it and at last arrived at a definite plan. As we have already informed Vice Premier Gu Mu, we would like to cooperate on six of the eight projects and to have the implementing authorities hammer out the details.

(4) As for government loans, talks on a bilateral basis are advancing between our two countries. As we discussed in the car on the way from the airport, in regard to the issue of developing the oil in Bohai, we are most pleased that the talks between Japan

and China have been brought to a close. The long-term trade agreement has been concluded and bank loans have been made. Our thinking, then, is that we would like to undertake economic cooperation not only between governments but via the private sector as well.

(5) When I previously visited China and met the late Premier Zhou, he said that relations of friendship and cooperation between our two countries had to benefit not the stability and prosperity of our two countries alone but that of the region. Japan and China's having a relationship of friendship and cooperation has become a major condition for the stability of the Asian region.

(6) A peninsula is always something like a powder keg. For example, like the Balkan, Korean, and Indochinese peninsulas, they became the seeds of conflict. What our two countries undertake or do not undertake has a political influence. In this sense, I will speak first of the problem of the Korean Peninsula. The problem of the Korean Peninsula's unification is for the Korean people alone. The reality, unfortunately, is a situation of confrontation between two authorities. Some years ago, we had hoped that the North-South talks would bear fruit. At present, unfortunately, there is nothing to see for it. There is a need to create a good environment for North-South talks. Your country has close relations with the North. Japan has relations with the South. The United States, your country, Japan, and the Soviet Union must think what to do and what not to do for the sake of the peninsula's stability. I would like to hear your country's judgment on this point.

(7) As for the Indochinese Peninsula, tension continues there. Cambodia, too, is in an extremely difficult situation. We have delicate relations, but I would like to hear the opinion of your country, which has influence in this region.

(8) Japan has been developing relatively good relations with the five countries of the Association of Southeast Asian Nations (ASEAN). The entire Pacific region is in a terribly difficult situation, but we are thinking about the functional strengthening of resources and trade as such. New Zealand, Canada, the United States, Mexico, and other countries have a common awareness on resource and trade relations and are maintaining close relations. Also, there are many independent countries in Oceania.

(9) As for relations between Japan and the Soviet Union, there is no change in Japan's basic policy of resolving the territorial issue and concluding a peace treaty.

It is regrettable that settlement of the territorial issue is not in sight. However, working relations in such areas as the economy, trade, and culture are steadily growing and pose no fundamental problem. Recently, the Soviet Union has strengthened its military forces in the Northern Territories. This is of great concern to our country. It is unclear why that should happen at this time, but the Soviet Union's behavior is a threat to peace.

(10) The world economy is in a difficult situation. Expanding the entire economy is in the interest both of Japan and of the world. Japan, too, for its part, is therefore aiming to carry out cooperation as an advanced country. Constraints have emerged in the problems of resources and oil, and currencies are also in a difficult situation.

(11) Premier Hua, you visited four countries in Western Europe. Following your visit, how do you view the situation? Also, I would like to hear your view on the Sino-Soviet talks taking place in Moscow.

3. In response, Premier Hua spoke as follows:

(1) Prime Minister Ohira, I thank you for your detailed explanation regarding Japan's foreign policy. As for China's view regarding the development of the world situation, I think that you are aware of it, as Vice Premier Deng told you on his way back to China from his visit to the United States. Vice Premier Deng said that the international situation, seen on the whole, is not benign but is heading toward turmoil and disorder. At present, nine months since then, the situation is truly even more tumultuous and tense.

(2) As a concrete manifestation of this, with the problem between Israel and the Arabs unresolved, the problem between the United States and Iran is emerging and showing signs of expanding. Problems are also arising in Saudi Arabia. When turmoil develops in the oil-producing regions of the Middle East and the Persian Gulf, the threat to Western Europe's oil imports grows large. With no sign of a relaxation in tensions in relations between the United States and Iran, US embassies in such countries as Libya and Pakistan have been set on fire. China is greatly concerned by the development of the situation in this region. The four Western European countries that I recently visited are also uneasy about the region.

(3) Concerning the Indochina problem, Vietnam is carrying out a dry-season offensive against Cambodia. This is not simply a Cambodian problem. It is a threat to the five countries of ASEAN, particularly for Thailand and Malaysia. Behind it is the Soviet Union's global strategy.

(4) The Soviet Union is strengthening its armaments, including the deployment of SS20 missiles, against Western Europe. I think that the countries of Western Europe, therefore, should strengthen their defenses to deal with this threat. The countries of Western Europe see that the source of such tension lies in the Soviet Union's meddling in the Middle East. That becomes a setup for going around and encircling Europe. It seems that the Soviet Union is thinking of winning without fighting. The Soviet Union's going on the offensive against the "soft underbelly" of the Middle East, with its oil-producing countries, is an attempt to go around Western Europe.

(5) Vietnam's invasion of Cambodia, too, frankly would not have been possible without the support of the Soviet Union. Article six of the Soviet treaty in reality has the character of a military alliance. Vietnam, without the guarantee of this treaty, would not have made such a headlong advance. If Vietnam takes control of Laos and Cambodia and moves into ASEAN, it will be able to control Atlantic and Pacific routes, and the Malacca Strait in particular. The Soviet Union's gaining control of that strait would be a threat both to China and to the United States and Japan as well. It would also be an aid to Soviet security in Asia.

(6) A certain international institute in its outlook for the 1980s has forecast 1985 as a dangerous time, and we are also paying attention to it. There are some grounds to this forecast. For example, in 1985 the Soviet Union may have superiority in nuclear weapons compared to the United States.

Amon Japanese researchers there are some who are saying something similar.

(7) Our view is that there is a possibility of a third world war taking place in the 1980s but that it can be put off with the cooperation of the whole world.

There are now three "hot spots." Those are the Middle East, Indochina, and Africa. Visiting Western Europe, I realized that the Middle East is the hottest of the "hot spots" and that we will have to keep an eye on what happens there.

There is no sign that the disorder in Iran, which is the second country in oil production, can be calmed soon. In Saudi Arabia, too, contradictions are occurring.

(8) Concerning the Korean Peninsula problem, Vice Premier Deng has already spoken of it to Prime Minister Ohira. The recent killing of Park Chung Hee is evidence that South Korea's social and political crises are growing worse. North Korea is showing self-restraint in regard to such an event in South Korea. Thus, it is evident that the crisis on the Korean Peninsula is not one of the North advancing south.

When this event occurred in South Korea, President Kim Il Sung announced the slogan of unity, cooperation, and reunification and has proposed holding talks anywhere and with anyone.

Some American friends worry about the North advancing south, but there is no need for such concern. President Kim Il Sung is seeking the peaceful reunification of Korea with the slogan of independent and peaceful reunification. What we know is that he is saying that Korea even after reunification will continue an independent, neutral and non-allied policy. We have expressed our approval to President Kim Il Sung. Our hope would be for China and Japan to encourage South Korea's democratization. How do you think of that? We would like to discuss this point with our American friends as well. As you have said, Prime Minister Ohira, we would like to create a good environment, encourage North-South talks, and encourage the reunification of the North and South. This would be a plus for China and Japan, as well as for the peace and stability of the Asia-Pacific region.

(9) Concerning the Indochina problem, Vice Premier Deng spoke to Prime Minister Ohira in Japan concerning self-defensive counterattack and limiting it. The problem of Indochina is not only a problem of Vietnam but one linked to Vietnamese and Soviet hegemonist expansion and invasion. Thinking that China doing nothing was wrong and wondering what to do, we decided in the end on a limited self-defensive counterattack. Had we not limited it, advancing south after the capture of Lang Son would have been easy. If not for self-defensive counterattack, Cambodian resistance forces would long since have been eliminated and Vietnam would have made a move on Thailand and Malaysia.

(10) Vietnam has 200,000 troops in Cambodia and is now conducting a dry-season offensive. However, Cambodia's people's war has the support of the people, so it will not be easy for Vietnam to thoroughly eliminate the resistance forces.

(11) The ASEAN countries oppose Vietnam's invasion of Cambodia and demand the withdrawal of those troops. Their position is clear. In the UN General Assembly, ASEAN's proposal passed. The situation is still not ripe for carrying out a political settlement. China supports Democratic Kampuchea's fight and supports the ASEAN countries. If Vietnam were to invade Thailand, China would stand on the side of Thailand.

(12) The Cambodian people have been suffering since Vietnam invaded. Many countries, including various ones in Western Europe, have talked about Cambodian refugee relief. I, too, while visiting Europe, along with expressing approval there and speaking of our desire to cooperate, said that we would welcome any refugees who would like to come to China.

Also, in regard to the relief route, I proposed sending relief through Thailand, as sending it through Vietnam or Heng Samrin would put it in their hands. The European countries expressed approval for my proposal. The United States for a time sought to normalize relations with Vietnam but has postponed it, having seen Cambodia's invasion by Vietnam. We approve of this. Japan, too, has frozen aid to Vietnam, and we approve of this as well.

4. At this point, with the time for the reception drawing near, we decided to continue

on the 6th and brought today's meeting to a close.

(End)